

山口情報芸術センター [YCAM] : 映画上映

Select CINE TECTONICS=13 伊藤大輔 / 青山真治 監督作品上映

「忠次旅日記」「斬人斬馬剣」「Le Petit Chaperon Rouge」

2010年12月24日(金) -26日(日) 13:30

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオC ※3作品連続上映

発掘と復元により、現代に蘇った「幻の名作」が、ついにYCAMに。
80年代を隔てた2大監督の作品3本を、県内初上映。

山口情報芸術センター [YCAM] のシネマ事業では、近年、その発掘と復元が実現された1920年代の幻の映画2作品を含む、特集上映を開催します。本特集は、「芸術作品としての映画」をテーマに、歴史に残る貴重な映画作品を紹介するYCAMオリジナルの特集シリーズ「Select CINE TECTONICS (セレクト・シネ・テクトニクス)」の13回目として開催するものです。

今回は、日本の時代劇映画の基礎を築いた伊藤大輔監督(1981年没)のサイレント映画、さらに、映画監督/小説家として第一線で活動を続ける青山真治監督が、世界的名優とともに制作した話題作を、連続上映いたします。80年を隔てた2人の監督による3作品を通じ、芸術史、メディア史に刻まれる映画の多様性をご堪能いただけます。さらに最新の復元技術を用い、再び姿を現した日本の時代劇映画の傑作を通じ、文化遺産ともいえる映画を山口県内のみなさまへお伝えいたします。

チケット情報

料金：[全席自由]一般 1,000円、any会員・学生・特別割引 800円
※チケットは会場入口にて販売(当日券のみ)

ぜひこの機会に、取材や記事掲載ご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

お問い合わせ 山口情報芸術センター[YCAM] 担当：廣田、松富
TEL：083-901-2222 FAX：083-901-2216 e-mail：information@ycam.jp
〒753-0075 山口県山口市巾着町7-7 <http://www.ycam.jp/>
取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。



「斬人斬馬剣」[パテベビー短縮版/デジタル復元版]

■ 上映作品

「忠次旅日記 (ちゅうじたびにっき)」

監督：伊藤大輔 / 1927年

「斬人斬馬剣 (ざんじんざんばけん)」[パテベビー短縮版/デジタル復元版]

監督：伊藤大輔 / 1929年

「Le Petit Chaperon Rouge (ル・プティ・シャブロン・ルーージュ)」

監督・脚本：青山真治 / 2008年

※3本連続上映(併せて124分/途中休憩あり)

主催：財団法人山口市文化振興財団

後援：山口市、山口市教育委員会

フィルム提供/協力：青山真治、東京国立近代美術館フィルムセンター

協力：松井 宏(nobody)

企画制作：山口情報芸術センター[YCAM]

上映作品解説 ※「忠次旅日記」「斬人斬馬剣」は、本来18コマの作品ですが、映写環境の都合により24コマで上映します。

ちゅうじたびにっき 「忠次旅日記」

1927年/日本(日活大將軍) / 70分/染色/サイレント
監督: 伊藤大輔 撮影: 渡会六蔵(信州血笑篇)、唐沢弘光(御用篇)
出演: 大河内傳次郎、中村英雄、中村吉次、阪本清之助

絶大な動員を誇った、日本映画史に燦然と輝く時代劇映画。

大河内傳次郎などの名優たちが繰り広げる迫真の演技と斬新な演出で「大河内傳次郎=伊藤大輔コンビ」の名声を不動にした作品。フィルムが失われ「幻の映画」となっていたが、1991年に三部曲のうち「信州血笑篇」の一部と「御用篇」の大部分の可燃性プリントが発掘され、復元がおこなわれた(1992年製造)。

東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵作品



ざんじんざんぼけん 「斬人斬馬剣」【パテベビー短縮版/デジタル復元版】

1929年/日本(松竹下加茂) / 19分/白黒/サイレント
監督: 伊藤大輔 撮影: 唐沢弘光 出演: 月形龍之介、天野刃一、伊藤みはる、関操

文化遺産としての映画。日本映画の傑作、待望の復元。

封建的支配に対する農民一揆を、小藩のお家騒動として表現した「傾向映画」の代表作。2002年に9.5mmフィルムのダイジェスト版が発掘され、オリジナルの2割強が現存している。東京国立近代美術館フィルムセンターにて初めてデジタル復元が試された作品(2003年製造)。

東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵作品



伊藤大輔 いとう・だいすけ

1898年生まれ。映画監督。1924年、国木田独步原作の「酒中日記」で監督デビュー。大河内傳次郎と初コンビを組んだ1926年「長恨」で脚光を浴び、1927年には、国定忠次を描いた「忠次旅日記」の三部作を発表。以降も日本の時代劇映画の中心的存在として傑作を多数生み出している。代表作に「血煙高田の馬場」(1928)、「新版大岡政談」(1928)、「王将」(1948)などがある。1981年没。

「Le Petit Chaperon Rouge (ル・プティ・シャブロン・ルーージュ)」

2008年/フランス/35分
監督・脚本: 青山真治 撮影: セバスティアン・ビュシュマン 録音: ミカエル・パレ
出演: ルー・カステル、ジュディット・セムラ、アルバン・オーマード、ジャン・クルストフ・フォリー、ジョナサン・マンザンビ

名優ルー・カステルを主演に描いた、物語「赤ずきん」

20歳の娘デルフィーヌ。既成の秩序を破壊した70年代は、たとえまだ生まれていなかったにしろ、彼女にとって過去の遺物ではない。そんな彼女はいま、自らの行動を可能にする、あるものを取り戻そうと決意している。かつてそれは自分のものだったというのだが……。

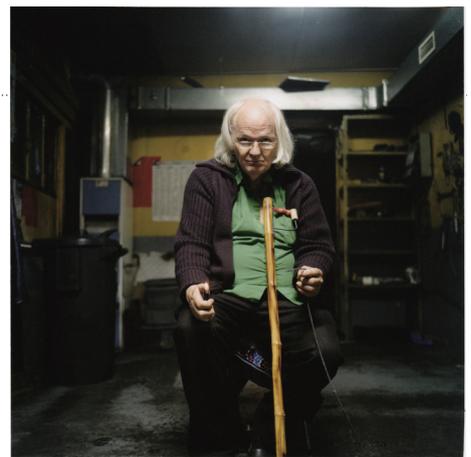


photo: naoko tamura

青山真治 あおやま・しんじ

1964年生まれ。映画監督、小説家。1995年、Vシネマ「教科書にないッ!」で監督デビュー。1996年「Helpless」で劇場デビューの後、「EUREKA」(2000)でカンヌ国際映画祭国際批評家連盟賞を受賞。代表作に「月の砂漠」(2001)、「サッド・ヴァケーション」(2005)などがある。劇映画からドキュメンタリーまで幅広い作品を手がけ、小説家としても広く知られる。